

3月のどきどき

アシストもゴールも体当たり

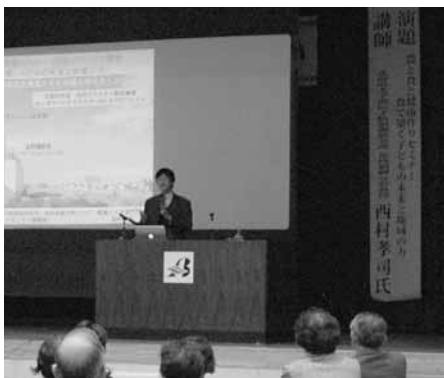
3月6日せいこドームで町内外から21チームが集まり第5回安平町アイスゲット大会が開催されました。

スティックを振り上げるのと同時に踏ん張っていたはずの足も宙に浮き、見事に空振りだったり、追いついたボールに数センチ足りず、ボールを奪われてしまうなど、うまくいかない氷上のスポーツ。どの試合も熱戦で笑いが止まりませんでした。



明るく豊かな地域づくりに

2011あびら女性の集いが3月6日町民センターで150名が参加し開催されました。免疫学者西村孝司氏の講演で、町の特産品でもある黒千石の特徴について紹介されると、参加していた栽培農家の方は「研究のおかげで、苦労してきた甲斐があった」とこれまでを振り返り、会場には劳いの拍手が起きました。休憩時間には、会場のあちこちで近況報告や情報交流をしている様子が見られ、今後の活躍に期待が寄せられます。



活字離れの時代だから

パソコンや携帯端末機器、電子書籍の普及で図書に触れることが少なくなっていますか？早来ライオンズクラブでは図書に親しみを持つてもらおうと早来中学校に図書を寄贈しています。

3月15日早来ライオンズクラブ（会長松山健二さん）の方が早来中学校を訪れ、図書の目録が贈呈され、学芸常任委員の千葉さやかさんと堀川颯樹君は「毎年贈られる図書のおかげで図書室の利用が増え、進学や将来の夢などの参考になっています」と感謝の意を伝えました。



認知症患者を支える地域づくり

認知症サポーターって何をやるの？そんな疑問を解くために141名が集まり3月15日ぬくもりセンターで認知症サポーター養成講座が行われました。

講師の北海道医療大学看護福祉学部看護学科井出訓教授は「認知症サポーターとは、特別なケアをする人ではない、認知症について正しい知識を持った人、認知症の方やそのご家族を見守り支援する人です」と説き、認知症患者やその家族に対し地域で何ができるか気づいたときからサポーターとしての役割を果たしていただと話されました。



北海道一周フリーハグの旅

北海道を代表するキャラクターとして誕生した「コアックマ」は地域振興やと社会福祉貢献活動を主軸としたPR活動を行なっています。

道内の全市町村を訪れ、その様子を情報誌やホームページで紹介する取り組みを行っています。3月24日来町した「コアックマ」は、朝から鉄道資料館や牧場等の町内施設をめぐる「はやく来た子ども園」では子ども達との交流を行いました。

安平町の日、感じた魅力をどのように表現してくれるのでしょうか？

